

<環境ヒヤリ情報>

ピット補修工事における高pH水排水事故 《環境汚染》

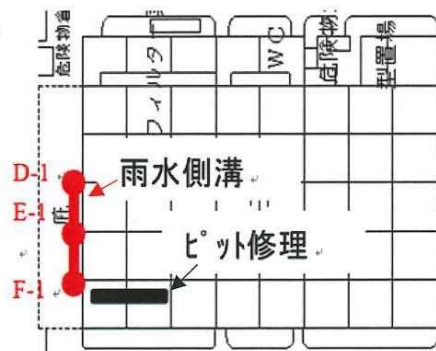
1. 日 時 2021年6月21日(月) 午前11:00頃
2. 場 所
3. 工事名 ピットの蓋受け部の劣化によるグレーチングのガタツキ補修工事
4. 請負形態 元請 I 社→A社(1次)
5. 漏洩物 コンクリート打設時の高pH水(pH10程度)約700ℓ(外部流出なし)
6. 状 況 ポンプアップした高pH水を処理せず雨水枡に排水した
7. 発生経緯
 - ①6月19日(土) ・ , コンクリート打設工事を実施
 - ②6月20日(日) ・ 工事担当部署より、コンクリートに溜まる水は高pHになるので排水をしないよう指示を受ける
 - ③6月21日(月)
 - ・9:50 修理中のピットに空調のドレン水が溜まって、作業の支障になったため、現場で勝手に判断し雨水枡(工事概要図F1)にポンプで排水※1
 - ・10:50 工事管理部署が現場を巡回中に雨水枡への排水が発覚
 - ・11:00 雨水枡への排水を停止し、枡を堰き止めて流出を防止※2
 - ・15:15 枡に溜まった汚水をバキュームで吸引開始し、17:15全吸引完了

※1. ピット内に水が溜まってしまふことは予定外であったが排水のリスクを抽出せず流出させた

※2. 排水のpHはpH10の高アルカリ汚染水であった

- 補足:
- ① 6月21日は、作責が交代している
 - ② 現場状況変化で計画が大幅変更となったが再RAなし
 - ③ ピットに水が溜まる認識有り

[工事概要図]



問題点と対策事項

問題点	対策事項
① 予定外作業となり、ピット水とコンクリートとの接触が発生したが現場判断で汚染水を枡に流した	① 計画外作業が発生した時は『止める・呼ぶ・待つ』の原則に従い、工事を止めて工法を再検討し工事管理部署の許可を得ること 構内作業マニュアルP25
② 工事計画(施工計画書)と現場の作業指示書の内容が違っている	② 工事責任者は、事前現場確認を確実に実施し、安全施工計画書として作業責任者に詳細を説明し、作業責任者は施工計画書に基づいてリスクアセスメントに基づき工事を計画当日の作業指示書を作成する様に一連の流れを徹底すること 構内作業マニュアルP8
③ 環境汚染に対するリスク認識が低い	③ セメント分の溶けだした水が高pHの水溶液で環境汚染になることを各工事・作業責任者に教育すること 構内作業マニュアルP8
④ 作責交代時の情報引継ぎがあまい	④ 作責交代時は、計画に対して施工、人、変化状況をもれなく引継ぎを行う